

評価基準

良い…5点 やや良い…4点

普通…3点 やや不十分…2点

不十分…1点

静岡県中部看護専門学校 組織運営 自己点検・自己評価表

(令和元年度 評価3月)

評価項目		評価資料	評価の視点	令和元年度計画	評価点	令和元年度評価および今後の課題 (学校内評価)	第三者評価	
大項目	小項目						点	内容
I 学校 経営	1. 志太広域事務組合における看護学校の意義・役割及び目標を教職員が理解している。	教育事業実施計画 運営組織図 学生便覧 学校運営会議録 年報	<ul style="list-style-type: none"> 志太広域事務組合における看護学校の意義・役割、教育理念を策定し、それを教職員が周知している。 組織目標は文章化し学校以外にも公表している。 中、長期的な検討をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めの式には、参加できる職員は参加する。 庶務課、教務課の組織目標を4月に立て、職員が周知する。 副校長兼教務課長の役職の兼務を解き、副校長として学校経営に力を注いでいけるように志広組に働きかける。 	3	<p>年度初めの式には教務課も参加し、管理者・局長の言葉を聞いている。</p> <p>組織目標を立て職員に周知した。教務課では教員増のこと、計画的な時間外勤務、実習指導時間、有給休暇の取得など具体的な働き方改革を示した。</p> <p>志広組の総務課長、局長に伝えている。平成30年度の本会議後に委員長より「学校運営ということ副校長としてやっていく必要がある。副校長というのは校長の代わりに運営に携わる力を持っている。また、ベテラン教員が多いが役職がついていない。外部と対等に意見するためにもそれなりの役職が必要である」という意見をいただいた。本組織の課題である。組織の人事とヒアリングの場で伝えていく。教員にはモチベーションを維持しキャリアを生かした役割を担ってほしいため、昇格については看護部、人事と話をした。</p> <p>また、第2回委員会において、教務課組織のなかでそれぞれの役割を明確にしていく必要性も指摘された。次年度の教員の役割については、教員個々がやりがいを持てるよう、キャリアや得意分野を生かし決めていきたい。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> 学校長を補佐し学校経営を担う副校長と教育課程運営を担う教務長の役割に求められる資質、力量はそれぞれ異なるがとても重い。その両方を兼務することは、重責である。志太広域事務組合が求める看護師教育を推進してゆくためにも、教務課の魅力ある役職の整備が望ましいと考える。 創立30周年を迎え、いずれは多くの卒業生が看護教員として後輩の指導を担っていくであろう。伝統ある看護教育の魅力発信のためにも、臨床と同じく役職の充実と昇給の機会を整備したい。

I 学校経営	2. 教育事業重点目標に対する評価を実施し、その結果を教職員に周知するとともに、次年度の目標につなげている。	教育事業実施計画 運営組織図 年報 各会議録	<ul style="list-style-type: none"> ・教育事業重点目標を設定する際に、教職員の意見を取り入れている。 ・前年度の評価を活かした目標である。 ・目標を評価し、次年度の課題を明確にしている。 ・評価結果を教職員に周知している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会委員の意見、教職員の意見を取り上げ、組織運営自己点検自己評価をし、教育事業重点目標を立案する。 	5	<p>学校運営協議会、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会、講師会議など委員や講師の意見を聴取し改善を図り次年度の目標につなげた。また、教職員は自己点検自己評価表に基づき自己評価した。その評価も取り上げ目標につなげている。</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> ・志太地域における急性期病院の看護師充足は、未だ厳しいと言える。高齢者の地域での健康支援を推進する社会人基礎力・適応力・コミュニケーション能力・自己評価力などの育成にも努めていただきたい。
	3. 学校組織図（意思決定システム）を基にした、運営（協議会・委員会・会議等）がなされている。	教育事業実施計画 運営組織図 組織運営自己点検・自己評価表 各会議録	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの運営組織において、重要事項の検討および共通認識の場として機能している。 ・それぞれの運営組織において意思決定した内容の共有化を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校組織運営図に基づき、それぞれの会議を行い情報共有していく。 	5	<p>計画通り会議が開催されている。</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> ・学校理念や卒業時の学生像を基に、校内の意思決定は円滑に行われ、学校運営評価（自己評価および学校関係者評価も高い）にも表れている。また受験者数の増加や国家試験合格にも現れている。

<p style="text-align: center;">Ⅰ 学 校 経 営</p>	<p>4. 組織運営評価を実施し、評価結果を教職員に周知するとともに外部にも公表している。</p>	<p>教育事業実施計画 運営組織図 組織運営自己点検・自己評価表 ホームページ 各会議録</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営評価結果を教職員に周知している。 ・今後の課題を明確にし改善点を出している。 ・運営評価結果を、ホームページなどを通じて公表している。 ・中間評価を実施し、その結果を後期に活かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度の自己点検・自己評価は3月中旬に第三者評価を含めて行い、4月中旬にホームページに公表する。 ・学校関係者評価委員会の意見を活かし、PDCAサイクルを循環させていく。 	5	<p>組織運営自己点検・自己結果表は4月にホームページ上に公表した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設立30年を迎え、これまでの看護教育評価に加え、新たにキャラクター作成などを通し、未来に向けた取り組みを模索している。丁寧に真摯な教育活動の現れについて、速やかに開示し、常に助言や支援を求める姿勢には好感がもてる。 ・学校職員・志太広域の臨床場全てで、学生を生活面、学習面、実習面で支援する体制がうかがえる。
<p style="text-align: center;">Ⅱ 教 育 課 程 ・ 教 育 活 動</p>	<p>5. 教育理念を基に卒業時において持つべき看護師の資質を明示し、教育目的・目標に反映させている。かつ学生の学習の指針となるようわかりやすく示している。</p>	<p>学生便覧 教育課程検討会報告書</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師として持つべき資質が、明文化されている。 ・教育目標がわかりやすく示され、学生に説明する機会を設けている。 ・教育目標の妥当性を教員間で確認する機会を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度策定したディプロマポリシーの検討過程を検討会報告書としてまとめ、公表する。 ・ディプロマポリシーを教育目的・目標と共に、学生に示し周知させていく。 	4	<p>4月に学生全員に、シラバスと共にディプロマポリシーを説明した。さらに、実習指導者会議において指導者に説明した。また、教育課程検討会報告書にまとめ公表した。学生・教員とも意識できるように職員室・クラスに掲示していきたい。</p> <p>今後ディプロマポリシーに基づいた到達度評価をどのようにしていくかが課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生のシラバスの活用度、学生自身のディプロマポリシーに基づいた到達度の評価を如何に尺度化できるかがこれからの課題となる。

II 教育課程 ・ 教育活動	6. 各教科目の教育内容は、教育理念、教育目的・目標との一貫性があり、社会のニーズに応える内容になっている。	学生便覧 講義要綱 教育課程検討 会報告書	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念、教育目的・目標が一貫された内容であり、それが明文化されている。 ・教育内容は、社会のニーズに対応した内容を含んでいる。 ・教員間で教育課程を検討し、評価する場を設けている。 ・学校の独自性が盛り込まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム改正や今後の看護基礎教育に関する情報を得て、令和4年度施行のカリキュラム改正に備えていく。 	4	令和元年10月15日に厚労省の看護基礎教育検討会報告書が公表された。それにより令和4年度施行の改正カリキュラムの概要が明らかにされた。今後ガイドラインなどの詳細が出されるが、昨年度策定したディプロマポリシーを基に、学校の特色が見えるカリキュラムを構成していく計画を立てていく。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の改正カリキュラム施行に向け、令和元年10月に厚労省の看護基礎教育検討会報告書が公表されたが、地域に根差した看護師養成に期待することも標記している。専修学校の特徴と志太広域事務組合等の学習環境をふまえた独自性ある教育内容に期待したい。
	7. 教育課程との整合性がある授業計画が作成され、学生が学習内容を理解できるようにしている。	講義要綱 実習要綱 授業案	<ul style="list-style-type: none"> ・講義要綱、実習要綱の内容は教育課程との整合性がある。 ・講義要綱、実習要綱を作成しており、学生が学習内容を把握しやすいよう記載されている。 ・評価計画を講義要綱・実習要綱に示している。 ・前年度の評価をもとに、各看護学で講義要綱・実習要綱や授業案を検討している。 ・ガイダンス、オリエンテーションを適切に実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・改善されたシラバスを活用し学生の習熟度に応じたガイダンスを丁寧に行う。 	4	シラバスを活用し、ガイダンス・オリエンテーションを計画的に実施した。シラバスが改善されたことにより、授業内容が伝わりやすくなり、学生は学習者として責任を持ち授業に取り組めたと考える。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・入学前の学習支援、入学時のガイダンス・オリエンテーション・学年毎の学習支援・国家試験に向けての特別支援・演習を通じた実習前後の支援等、個々の学生の到達度に合う支援および評価が行われている。 ・きめ細かな支援内容と共に、教員の熱のこもった指導体制が学生の学習成果につながっていると考える。

II 教育課程 ・ 教育活動	8. 教育内容を保障するために専門性を考慮した講師(実習指導者を含む)・教員を選定している。	・資格・履歴書・研修報告・	・教育内容と講師・教員の整合性を確認している。 ・講師は看護基礎教育に必要な教育内容を理解している。	・今後も専門性を考慮した講師・教員を選定を行っている。	4	基礎分野では大学教員や各々の分野の専門家(職)、専門基礎分野・専門分野では臨床で働く医師や看護師、認定看護師(11人)等の専門家によって講義を行っている。	講師の選定に苦慮されていると思われるが、学生の授業評価等を参考に、適材適所で考えている。
	9. 効果的な授業運営を図るため、適切に時間割を調整している。	時間割 時間割変更表 進度表	・年度当初に年間の時間割を提示している。 ・時間割作成時に担当教員と調整をしている。 ・時間割は学生の状況に合わせて作成している。 ・学習の順序性を考慮した時間割になっている。 ・授業変更時には迅速に学生に伝達している。	・授業の進度や関連性を考慮し作成していく。 ・4月には前期の時間割を提示していく。	4	本年度は授業変更が多いが、大きなトラブルはなく、年間の時間割については完了している。 学内教員においては、個々の仕事の役割や、担当授業の進度などを確認しながら時間割を入れ、なるべく時間割変更が無いように努力する。	・授業変更が多かった理由を明らかにして、次年度は時間割変更をできるだけ少なくしたい。

<p style="text-align: center;">II 教育課程 ・ 教育活動</p>	<p>10. 授業案を作成し、学生が理解できるように学習内容や指導方法を工夫し改善している。</p>	<p>講義要綱 授業案 学生による授業評価の結果 年報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業案を作成している。 ・ 学生による授業評価を実施し、授業評価の結果を活用して工夫・改善につなげている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業案を共有するため、パソコン上のファイルに保存する。 ・ 他の科目や単元の内容を確認し、教員個々が共有する意識を持つ。 ・ 授業評価を活用し、授業改善を図る意識を持つ。 ・ 他の教員の授業に参加し意見を伝えあう。 ・ 授業研究のための教員、講師の公開授業を検討していく。 	3	<p>授業案はパソコン内のファイルに保存し共有できるので、他の科目や単元の内容を把握しつつ、授業内容・方法の工夫がしやすい。</p> <p>学生による授業評価を活用し、授業内容・方法の改善につなげている。</p> <p>研究授業等は現在実施できていない。本委員会で「他の教員の授業に参加し意見交換するなどから始めていったらいい」という意見をいただいた。「2回以上は他の授業に参加する」などの目標を立て実践していきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業評価の意味を思考し、授業スキルを確実に伸ばしていただきたい。 	3
---	--	---	--	--	---	---	--	---

<p style="text-align: center;">II 教育課程 ・ 教育活動</p>	<p>11. 学生の学習支援のための体制を整えている。</p>	<p>学生指導検討 会会議録 学生指導記録 講義要綱</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援の対策を整えている。 ・科目のねらい、目標、学習内容、評価方法などを示し、説明している。 ・学習困難な学生に対して支援している。 ・単位認定できなかった学生に対し、教員は学生の自己分析結果に基づき、対応策を学生とともに考え指導している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験対策プロジェクトを中心に、1年次からの学習支援の計画を立てる。 ・入学前プログラムを活用し、入学前からの学習支援に取り組む。 	<p style="text-align: center;">4</p> <p>国家試験対策については4月に計画を立案し実施に取り組んでいる。効果について今後評価していき、次年度につなげていく。国家試験直前になっても必修問題が80%取れない学生もいる。絶対評価である必修問題については、低学年の段階から意識づけて危機感をもっていけるよう改善が必要である。</p> <p>入学前プログラムについては、実施後アンケートを取った。全員が「役に立った」と答えている。「コツコツやるようになった」「解剖生理が頭に入っているので役に立った」「形態機能学の授業内容が理解しやすかった」「学習意欲につながった」などのコメントがあった。教員からのコメントは課題とすべき点と励ましなどの支援を心掛けた。入学後も入学前プログラムで学習したノートをグループで回し学びあう機会を作った。また、科目試験が優評価の学生を発表し掲示することで学習意欲向上につながった。</p> <p>単位認定できなかった学生は個々の課題に沿って学習支援を行う。。学習障害の傾向にある学生への支援については研究会や文献学習から学びを得る。教員間で学生の現状や教員の悩みを共有し、複数の教員で支援していく。</p>	<p style="text-align: center;">5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員チームが連携し合って、指導することにより、柔軟な指導が行われている。今後も継続したい。

<p>II 教育課程 ・ 教育活動</p>	<p>12. 実習施設は、教育理念、教育目的・目標を理解し、学生の看護実践を支援するための体制を整えている。</p>	<p>学生便覧 実習要綱 教育課程検討 会報告書 実習指導者会議録</p>	<p>・実習施設は教育理念、教育目的・目標を理解し実習指導に臨んでいる。 ・実習施設は各実習の学生のレディネス、実習目的・目標、内容を把握し指導にあたっている。 ・実習施設にはカンファレンスや学習を整理する場所が設けられている。 ・実習期間には実習指導者が専任で指導にあたっている。</p>	<p>・実習施設との報告・連絡・相談を密にし、実習指導体制の強化を図る。</p>	<p>4</p>	<p>4月に実習指導者会議と8月に3病院に出向いての実習指導者連絡会議、老年指導者会議、1月には保育園指導者会議を開催した。他精神看護実習では病院との調整会議を行った。 厚労省から出されている「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」が見直され、到達度を示す「技術」は対象の観察やアセスメントを含まないテクニカル・スキル（手技）となっている。実習でも体験が必要なものも出てくるため、到達度を臨床と共有し指導に当たる必要がある。</p>	<p>4</p>	<p>・令和4年度の改正カリキュラムでは地域での実習場との連携が求められる。学習環境ができるだけ同一化されるよう整備していただきたい。</p>
-----------------------------------	--	---	---	--	----------	--	----------	---

II 教育課程・ 教育活動	13. 実習指導者と教員の役割を明確にし、互いに協働して実習指導にあたる体制が整えられている。	実習病院との申し合わせ事項用紙 実習指導要綱 実習指導案	<ul style="list-style-type: none"> ・実習指導要綱を作成して活用している。 ・指導者会議を開催している。 ・実習指導者と教員の役割を明文化しているものがある。 ・実習指導者と教員の実習前の打ち合わせ、実習後の振り返りを行っている。 ・日々の指導の中で、学習内容や指導方法について教員と指導者で常に意見交換している。 ・より質の高い実習指導体制を整えるために、指導者と教員が参加する学習会などが企画されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員、指導者の役割と責任については実習指導者会議で毎年伝えていく。 	4	<p>教員、指導者の役割と責任については、4月の指導者会議の分科会（看護部教育担当）にて伝えられている。</p> <p>8月の実習指導者連絡会議では「多職種連携」をテーマに、現状と課題を明らかにし、双方の役割を確認した。</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と臨床の指導者が情報交換し、課題を共有し、個々の学生に適した方法で指導できるように努力していただきたい。
	14. 実習単位認定のための評価基準と方法を明示しており、かつ評価について公平性・妥当性が保たれている。	実習要綱 実習評価ルーブリック表	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準を書面で提示している。 ・評価方法および評価結果を学生に説明している。 ・実習の評価は複数で行っている。 ・学生はルーブリック表を活用し自己評価をしている。 ・実習評価の公平性・妥当性が保たれるよう評価規準・基準の見直しを毎年行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在使用しているルーブリックが妥当であるか、各科目で評価していく。 ・実習指導者の意見も伺いながら、共同作業で作成していくことも検討する。（新カリキュラムとも対応させて） 	3	<p>思考・判断・表現を見ていくためにルーブリックを作成しているものが多い。特に実習においては全実習において作成している。しかし、文言の理解が難しく、学生と指導する側との解釈の一致ができにくいものもある。学生の自己評価を促すためにも改善が必要である。</p> <p>委員より表現の統一ではなく、内容の整理、共有が必要という意見をいただいた。現行ルーブリックのいくつかの見直しを教員の小グループで行い、ルーブリックに対する認識の統一を図っていく。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリックに対する認識の統一をはかり、次年度には、易しい表現の実習評価ルーブリック表を期待する。

II 教育課程 ・教育活動	15. 臨地実習において看護を必要とする人々の権利を尊重する考え方にに基づき、倫理的配慮を励行している。	実習要綱	<ul style="list-style-type: none"> ・看護を必要とする人々に事前に説明し、同意を得ている。かつ施設ごとに指定された同意書を交わしている。 ・看護を必要とする人々への倫理的配慮に関するガイドラインを作成している。 ・看護を必要とする人々への倫理的配慮について指導を行い、学生は倫理に基づいた行動を心がけている。 ・倫理的事項に関連した苦情がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習目標にあげた看護倫理に関する目標の評価結果を分析する。 ・実習目標に挙げた看護倫理に関する目標について、検討過程を振り返り見直していく。 	3	看護倫理に関する目標については、本年度3年次について1年次からのデータを取り分析中である。今後も看護倫理に関する目標については検討していく。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・継続していただきたい。
	16. 医療過誤防止に基づき、学生の実習に対する安全方針を出し、安全教育を行っている。	学生便覧 実習要項 事故報告書 学生指検討当 会議事録 オリエンテー ション指導案	<ul style="list-style-type: none"> ・インシデント発生時のマニュアルを作成している。 ・感染予防の対策を示し、実施している。 ・実習前後に安全教育を実施している。 ・インシデントなどの情報が速やかに報告され、教員間、学生間で共有している。 ・学生が関係したインシデントについて分析し再発予防に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事故発生時の対応マニュアルを完成させる。 ・感染予防対策として、感染症の検査とワクチン接種について、他校の状況を情報収集し、実習病院の方針も伺いながら整えていく。 	4	事故発生マニュアル（教員用）については検討中である。 学生指導検討会（2回／月）で、実習中の事故報告を行い再発防止の対策を検討している。 1・2年次生に対し、ワクチン接種の必要な者を洗い出し、文書及び説明にて接種を依頼した。現在、1・2年次生はB型肝炎ワクチン接種を計画的に実施する準備ができています。新入生についても同様、計画的に進めていく。 小項目15の倫理の部分ともつながってくるが、実際のインシデントを学生に公開し共有する機会を作り、倫理的態度の育成につなげていきたい。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・事故および災害を想定し対策等を準備する、マニュアルの点検は必須である。今後も継続したい。

<p style="text-align: center;">II 教育課程 ・ 教育活動</p>	<p>17. 教育課程を評価する体系を整えている。</p>	<p>授業評価マニュアル 授業評価結果保護者への返信用紙 学校関係者評価委員会 教育課程編成委員会 講師会議 実習指導者会議 年報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の反応から講義や教授方法の適切性を確認し、改善につなげている。 ・学生による授業評価を実施し、その結果をフィードバックし授業改善につなげている。 ・第三者評価を実施し、その意見を教育課程に反映させている。 ・評価計画を立案・公表し実施している。 ・学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程編成委員会の意見を取り入れ、教育課程に反映させ、さらに改善していく。 ・学生による授業評価を継続し、授業改善につなげている。 	4	<p>学生による授業評価を実施し、授業改善に取り組んでいる。新カリキュラムに向け各領域毎の課題点を検討し明確にしていく必要がある。</p> <p>教育課程編成委員会での意見を取り上げ改善に取り組んでいる。</p> <p>実習評価に関しては、多面的な視点での評価が重要である。ディプロマポリシーにあげた内容を視野に入れた多面的評価について検討していく。</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価は教員・学生の授業に臨む姿勢の点検や自己の行動の振りかえりに使えるので、継続を望んでいる。

<p style="text-align: center;">Ⅲ 入 学 ・ 卒 業 ・ 就 職 ・ 進 学</p>	<p>18. より多くの出願者を確保することに努めている。</p>	<p>募集要項 入試委員会議 事録</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念、教育目的・目標から一貫性をもって、入学してほしい学生像を公表している。 ・入学者状況や、入学者の推移から入学者選抜の妥当性を検証している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高等教育無償化の認定を受け、誰もが平等に学びの機会を得られるようにする。 	<p style="text-align: center;">5</p> <p>令和2年4月1日施行の修学支援法に基づく、高等教育の修学支援制度（授業料減免）の対象校として文科省より認定された。9月20日に文科省ホームページに公表された。同時に志広組及び本校のホームページで対象校である旨を公表した。本年度は3名の学生が申請した。</p> <p>高校訪問、オープンキャンパス、進路説明会、ホームページでも取組みや認定について積極的にPRした。</p> <p>令和2年度入学試験では、推薦入試は前年度比25%増の50人、一般入試は54%増の91人の志願者があり、他の自治体立看護学校では減少か横ばいという状況の中、多くの志願者を確保することができた。関連病院への就職状況や、次年度よりの大学入試制度変更による浪人回避など要因は考えられるが、PRの成果はあったと評価している。しかし、委員からの指摘があったように、今後卒業生の学校評価も参考にし、本校の教育活動の評価を行い、本校の強みとしてしっかりとPR</p>	<p style="text-align: center;">5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続を望む。
--	-----------------------------------	-------------------------------	--	---	--	---

<p style="text-align: center;">Ⅲ 入 学 ・ 卒 業 ・ 就 職 ・ 進 学</p>	<p>19. 国家試験の合格率が100%となるよう、教職員が組織的に取り組んでいる。</p>	<p>国家試験対策プロジェクト会議録 各年次の国家試験対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験対策の計画が立てられている。 ・各学年の指導方針が明確である。 ・学生の国家試験対策への取り組み状況を分析し、指導に活かしている。 ・国家試験の合格率が全国平均を上回っている。 ・前年度不合格者に対して指導、情報提供をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の段階からの学習支援体制を強化し、国家試験全員合格を目指す。 ・年度当初には各年次の指導方針を出す。 	4		<p>年度当初に各年次のクラス方針を立てた。国家試験対策プロジェクトを中心に、各年次の対策の方針を立て、評価しながら進めていった。</p> <p>課題としては、小項目14の学習支援の項目とも重なるが、絶対評価である必修問題が確実に取れるような取り組みと状況設定問題の状況解釈する力をつけることがあげられている。グループ学習は、思考する力を他者からも学んだり、追究していく楽しさを感じたり、良い競争意識を持ったり効果が大きいと感じている。1年次から積極的に取り入れたい。</p> <p>全国模試の結果は毎年3年次の1月には全国上位になる。もう少し早い段階で結果が出てくると学生も学校も安心する。低学年からの国家試験に向けての取り組みが大きな課題である。</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> ・国家資格の重みを伝えたい。

<p>Ⅲ 入 学 ・ 卒 業 ・ 就 職 ・ 進 学</p>	<p>20. 卒業時の到達状況を分析している。</p>	<p>卒業時面接記録 面接記録 アンケート結果</p>	<p>・教育理念、教育目的・目標に照らし、卒業時の到達状況を把握している。 ・多面的に卒業時の到達状況を分析し公表している。</p>	<p>・平成30年度に明文化した卒業時の方針＝ディプロマポリシーのに基づき、卒業時の到達目標を評価し分析していく。 ・卒業時面接を実施し、その結果から「この学校を選んだ満足度」などを評価していく。 ・看護実践力の育ち度を評価していくため、卒業生の追跡調査を検討していく。</p>	<p>4</p>	<p>平成30年度卒業生に対し到達度評価アンケート、面接)を行い、9月の教員会議で共有した。平成31年度も同様に実施した。結果は今後まとめていく。 看護実践力の育ち度の評価については思案中である。平成30年度卒業生6名に対し12月にグループインタビューを行った。結果は今後まとめていく。</p>	<p>4</p>	<p>・卒業生からの到達度評価を経年的に行い、学生指導に活かすことを期待する。</p>
<p>Ⅲ 入 学 ・ 卒 業 ・ 就 職 ・ 進 学</p>	<p>21. 卒業生の活動状況を把握し、分析している。</p>	<p>同窓会 調査用紙と分析</p>	<p>・就職先への調査を行い把握する体制を整えている。 ・卒業生との情報交換や調査により、活動状況を把握する。 ・同窓会を活用し継続的に卒業生の活動状況を調査している。</p>	<p>・副校長が3病院の看護部長との面談を行い、卒業生の活動状況を伺う。 ・学校関係者評価委員会において、病院看護部や同窓会から状況を伺う。</p>	<p>3</p>	<p>3病院の看護部長との面談の際に、卒業生の様子を伺った。 卒業生の動向調査については今後検討していく。 *同窓会と共同していくことも考えている。</p>	<p>3</p>	<p>・卒業生からの情報を学校経営に活かすことを望みたい。</p>

<p style="text-align: center;">Ⅲ 入 学 ・ 卒 業 ・ 就 職 ・ 進 学</p>	<p>22. 卒業生の地域への就職率を高めるよう努めている。</p>	<p>就職先一覧表 関連地域病院への就職率</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関連地域の病院への就職に向けての説明会を行っている。 ・進路指導において、関連地域の病院の募集情報を収集し提供している。 ・年度の卒業生の関連地域への就職率85%程度である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年次ごとの病院説明会を開催する。（令和元年度3年次4月16日、2年次5月21日、1年次5月28日に実施） ・3病院の修学資金制度、職員採用の募集状況を把握し、必要時学生に提供する。 	5	<p>病院説明会は計画通りに実施した。本年度より1年次は、「実習病院のを知り、実習への動機付けとする」ことを目標に基礎見学実習前に行った。</p> <p>学校でも病院の奨学金、採用試験受験について、採用試験合否の把握をしていった。</p> <p>本年度3年次41名の就職状況は、焼津市立総合病院23名、藤枝市立総合病院8名、榛原総合病院4名であり、3病院への就職率は85.4%である。その他関連地域の病院1名、県内3名、県外1名、進学（助産）1名である。志太榛原地域の医療に貢献しうる人材の育成を使命とする学校として、3病院への高い就職率を維持していくことが今後も求められる。</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> ・志太広域事務組合の求める看護師の就活支援が綿密に行われ、期待する就職も行われているので、継続したい。
<p style="text-align: center;">Ⅳ 学 生 生 活 へ の 支 援</p>	<p>23. 就職、進学などの進路について学生の相談に応じている。</p>	<p>時間割 面接記録</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・就職説明会を実施し活用している。 ・就職、進学に関する相談にその都度応じ選択の支援を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病院の採用も全国的に厳しくなっていることから、必要時相談に応じていく。 	4	<p>必要時相談に応じている。</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の希望する時に相談にのっていただきたい。

IV 学 生 生 活 へ の 支 援	24. 学業継続支援体制 (経済的、精神的側面)を整えている。	募集要項 病院パンフレット カウンセリング実施表 面接事前アンケート 面接記録	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学金など経済的支援の情報提供をすると共に、相談に応じる。 ・カウンセリングの目的、カウンセラーの役割を学生に周知している。 ・カウンセリングが必要と思われる学生に、必要時教員から勧めている。 ・カウンセリングを受けていることのプライバシーが守られている。 ・定期的に学生との面接を行っている。 ・必要時には学生やその保護者との面接を行い情報共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の状況については、入学前プログラムから継続的に見ていく。 ・必要時カウンセリングを促し、効果的に活用していきようにしていく。 	3	<p>入学前プログラムから継続した支援を行っている。詳細は小項目11で評価している。</p> <p>経済的支援体制の一つとして、新たに高等教育の無償化の対象校として認定を受けた。</p> <p>カウンセリングは本年度利用者が1名であった。精神的支援として担当のカウンセラーは置いているものの効果的活用ができていない原因を分析していく必要がある。学年担当が相談に応じることもあるが、教員では対応困難な場合もある。専門家の支援を得られるよう検討していく必要がある。</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、経済的支援の必要な学生の相談が増加する傾向もあるので、専門職との連携が必要と思われる。教員だけで抱え込まないことを期待する。
	25. 学生の身体的側面の健康確保に努めている。	健康手帳 検査結果一覧 予防接種推奨の保護者へのお知らせ文 救急薬品一覧	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断を実施し、校医によるスクリーニングがされている。 ・健康診断後の指導、相談がされている。 ・禁煙教育を行い、敷地内は完全禁煙となっている。 ・インフルエンザなどの感染予防対策について周知啓発をしている。 ・救急薬品が補充され、保健室が整備されている。 ・必要時、慢性疾患等のある学生の情報を得て相談にのっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断終了後のスクリーニングの結果、指導が必要な学生には指導をする。受診行動や生活習慣の改善、検査値の把握等、継続的にフォローしていく。 ・学生自身が自己の健康状態を管理していくために、健康手帳の活用の仕方を検討していく。 	4	<p>感染防止対策として抗体価検査、ワクチン接種などの基準を変更し、学生自身の安全と、実習施設の要求に応じられるよう検討した。小項目16参照。</p> <p>健康手帳の自己管理に向けて検討をしている。</p> <p>慢性疾患をもつ学生に対しては、特に実習中の健康管理が重要となる。本人から申し出がない限り学校で十分に健康障害のことは把握ができない。健康管理については、学生・保護者に説明する機会を作っていきたい。(入学時の後援会総会や文書で)</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの健康管理に留まらず、健康支援の担い手である看護師としてどうあるべきかを教育していただきたい。

IV 学 生 生 活 へ の 支 援	26. サークル活動など 学生の自主的な活動を 支援している。	後援会予算表 サークルメン バー登録表 サークル活動 会計報告 自治体立球技 大会報告	・学生のサークル活動など自 主的な活動の支援体制が整っ ている。 ・サークル活動など自主的な 活動を行うための場所や物品 が整備されている。 ・サークル活動の発表や他校 との交流の場を設けることを 支援している。	・他校と交流できる自治体立 看護学校球技大会に向け、 サークル活動、コミュニティ の活動状況を把握し、練習を 促していく。	5	サークル活動、コミュニティ活動については、 後援会から助成を受けている。 公立の看護学校として伝統的に開催されている 自治体立看護学校球技大会に向け、バレー・バス ケなど一致団結して練習を行っている。しかし球 技大会の在り方については各学校で様々な意見が あり、次年度5月開催予定の自治体立看護学校協 議会において検討していく予定である。	5	・学生間の交流の場として、捉 え継続していただきたい。
V 管 理 運 営 ・ 財 政	27. 財政基盤を確保す ることの考え方が明確 であり、教育の質の維 持・向上につながっ ている。	志太広域事務 組合例規集 主要事業計画 予算計画書	・教職員はどのような財政基 盤によって成り立っているの か理解している。 ・教職員が管理運営に関する 意識を持ち、意見が反映でき るシステムが整っている。	・職員会議などで当初予算の ヒアリングの経過を説明し、 当初予算書の周知を促進す る。	4	職員会議・教員会議において予算書の周知をし ている。担当する役割についての予算の確認は担 当者が責任を持ち行っている。 志広組のヒアリングにおいて予算の必要性を根 拠となる資料を揃え説明している。	4	・今後も同様に期待したい。
	28. 年次事業計画、予 算計画を策定し、適正 な予算の執行・進行管 理を行っている。	主要事業計画 予算計画書 定期監査報告 書	・年間計画に基づき、計画的 に予算・事業執行を行ってい る。 ・計画的に設備備品の充足を している。 ・組織的に経費の節減対策を 行っている。	・今後も適正な予算執行を継 続していく。 ・省エネを学生にも意識して もらい経費の削減に努める。	5	年間計画に基づき、適正な予算・事業執行を 行っている。 省エネについては学生の環境整備委員にも協力 してもらい経費削減に努めている。	5	・今後も期待したい。

V 管 理 運 営 ・ 財 政	29. 学生や教職員の人権・個人情報保護について十分な対策がなされてる。	学生便覧 実習要綱 志太広域事務組合特定個人情報取り扱い規定	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護規定が策定されている。 ・個人情報保護規定が学生教職員に周知されている。 ・個人情報保護規定の通り管理されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理に関する規程は範囲が広いため、何が必要か内容を精選し、一つずつ着手していく計画を立てる。（個人情報保護に関する職員のガイドライン、文書保存のガイドライン等） 	3 10月に開催された志広組消防本部の「人権意識と法令順守」（人権啓発センター指導員講師）を職員研修として設けた。今後も意識を高めていくために研修を取り入れていく。 教務課のファイル管理を整備するとともに、文書管理ガイドライン（試験問題の管理方法など）を作成していく。また、パワハラ・アカハラなどのハラスメントに関する規定も必要と考えている。	4 ・今後も研修に期待したい。
VI 施 設 整 備	30. 災害や非常時の危機管理体制が整備されている。また、防犯、交通安全意識の向上に努めている。	学生便覧 防災訓練計画・実施・評価 学生・職員緊急連絡網 時間割	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルを作成し、随時見直しをしている。 ・防災計画が立てられている。 ・学生、職員の緊急連絡手段がとられている。 ・防災訓練を定期的に行っている。 ・災害時に必要な食糧の備蓄や備品を備えている。 ・防犯、交通安全講習会などを開催し、学生に受講させている。 ・不審者の侵入に対し監視体制が整備されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年を対象に交通安全教室を実施する。 ・緊急連絡網の伝達訓練、安否確認訓練（伝言ダイヤル「171」、まちcomiメール）を行い、災害時に確実に使用できる体制を作る。 ・防災訓練の在り方を見直し、より災害時に役立つものとする。 	4 全学年を対象に4月に交通安全教室を実施した。交通事故については今後集計していく。 安否確認訓練は年次ごとに行った。 焼津市のシェイクアウト訓練に全学生が参加するなど新たな訓練も導入した。 台風襲来前にはまちcomiメール、校内放送などで事前に注意喚起を図った。	4 ・今後も継続したい。

VI 施設 整備	31. 教育目標達成に必要な且つ安全な施設設備及び教材が整えられている。	施設設備計画書 予算計画書 主要事業計画書 指導調査報告書	<ul style="list-style-type: none"> ・指定規則に定められている設備、教材が整えられている。 ・設備、教材の点検を定期的に行っている。 ・適切な教材が整えられ、活用されている。 ・障がい者利用に配慮された構造である。 ・学生が自主的に学習できるよう整備されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム改正を見据え、施設設備や教材の整備を中長期的に計画する。 	3	<p>令和元年10月に厚労省の検討会報告書が出され、改正カリキュラムの概要が明らかにされた。ICT教育やシミュレーション教育などに向け検討し、必要な予算を計上していく必要がある。</p> <p>委員からいただいた意見として、社会人基礎力の育成、臨床判断能力の強化、コミュニケーション能力の強化、タブレット端末の活用、eラーニングの活用、事例を取り入れたシミュレーション学習などがあった。教育内容を精選し、必要な教材・設備の検討を早急に進めていく。</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> ・教育内容の精選を行い、令和4年改正カリキュラムをスムーズに施行できるように、準備を計画的に行う。また、専門職者として研究活動を勧めたい。研究結果の共有、意見交換を習慣にしたい。
	32. 医療の発展や学生層の変化に合わせて、看護教育に必要な施設設備の改善に計画的に取り組んでいる。	施設設備計画書 予算計画書 主要事業計画書	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的事業計画が立案されている。 ・教材備品については、最新の情報をえて、十分検討の上、購入希望の優先順位を決めている。 	VI 31の計画同様	3	同上	3	<ul style="list-style-type: none"> ・施設設備の充実を継続的に行っていただきたい。

VI 施設 整備	33. 学生が円滑に学習でき、学校生活が送れるよう環境が整えられる。	物品表	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が自由に活用できるスペースやホールがある。 ・学生が自主的に学習できるよう整備されている。 ・学生用施設は時間外での使用ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業時の面接やアンケート結果からの意見も取り入れ、また在校生のアイデアも取り入れ協働して環境を整えていく。 	4	<p>卒業生の卒業時面接や、校長が行う1年次の面接時の意見も取り上げ、学校生活が円滑に行われるような環境調整をしている。</p> <p>国試対策として校舎の一部を休日開放した。また、19時までの校舎使用対応で看護技術の練習や、授業の復習、試験学習などを行った。</p>	4	・今後も継続していただきたい。
	34. 教職員が職務を円滑に遂行できるように、施設設備を整備している。	施設設備計画書 予算計画書 主要事業計画書	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークスペースが確保されている。 ・教育に必要な図書が確保されている。 ・更衣や休息できるスペースが確保されている。 ・教員の研究に必要な検索システムが整えられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設設備上、ワークスペースの確保は難しいが、収納スペースを整理し、効果的活用ができるようにしていく。 ・休憩時間を上手に使っていく。 ・講師室及び研究室の教務図書の整理を行う。 	4	<p>小項目1でも述べているように、教務課の働き方改革として、計画的な時間外勤務、実習指導時間、有給休暇の取得など具体的な働き方改革を示した。</p> <p>教員の回覧物はできるだけ少なくし、掲示板ボードを活用した。</p>	4	・今後も計画的に、施設管理を行い働きやすい環境を整える。

VII 教 職 員 の 育 成	35. キャリア段階別教育計画が立てられているとともに、教員個々が目標を立てている。	教育計画	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア段階別教育計画が立案されている。 ・教員個人で目標を立て、個々の教育活動を評価している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の育成計画（教員の段階別目標試案）と教育活動の実際を照合し、試案を評価・修正する。 ・教員一人ひとりがキャリアポートフォリオを活用し1年の成長を確認する。 ・教員の育成や派遣については、3病院の看護部長と話し、中長期的な計画にもとで進める。 ・ホームページに看護教員の魅力発信のコーナーを設ける。 	3	<p>教員の育成計画については、試案を配布説明し、自己の状況と合わせ、試案を活用しながら自己評価するよう取組んでいる。その後意見を聴取するために配布したが、意見を求める段階には至らなかった。今後実施していく。</p> <p>教員一人ひとりがキャリアポートフォリオを作り、それを基に7月・12月に副校長と面談をし成長確認していった。</p> <p>教員派遣や教員養成、教務主任養成等、教員人事については3病院看護部長と話し合う機会を作った。今後も継続していく。</p> <p>教務課の広報係りを中心に、看護教員の魅力を伝えるために、教員新聞（仮）を作成し、3月までに3病院に掲示してもらう予定で進めている。</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の質と力量アップのために、自己評価を他の教員と共有することを継続していただきたい。

VII 教 職 員 の 育 成	36. 看護教育に必要な研修に参加できる体制が整えられ、他の教職員に還元する仕組みがある。	予算計画書 研修報告書	<ul style="list-style-type: none"> ・学会や研修などに参加できるよう計画されている。 ・学会や研修に参加した成果を報告し、他の教職員に伝達講習できるような時間や方法をとっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の人事や、教員の担当・役割を想定し、研修計画を立案する。（次年度は訪問看護研修を計画） ・研修後の伝達講習が十分に行われていないため、教員会議等を活用し伝達する仕組みを作っていく。 ・教員確保にも繋がるよう、公的な研修の保障、研修費の増を志広組に要望していく。 	3	<p>次年度の研修について（訪問看護研修、公費の学会など）計画した。授業や実習の担当時期を考慮し、研修に参加できるようにしていく。</p> <p>研修後の伝達講習は自主的に行っているが、組織的に取り組む段階までは進んでいない。</p> <p>学校関係者評価委員会の委員からの意見として研修費の確保について指摘されている。財政的には厳しく、毎年公費での学会予算を確保していくことも容易ではない。厳しい財政の中で確保した予算は効果的に活用していくことが求められる。希望した学会には確実に参加していけるように、実習や授業を調整していく。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> ・自己研修の一に研究活動を積極的に行い、学会等で発表することを、教育者として習慣化したい。
VII 教 職 員 の 育 成	37. 専門性を高めるために必要な研修を受けられる体制が整えられている。	研修計画・報告書 予算計画書	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画の中に研修を組み入れ、円滑に授業や実習指導が進められるよう計画している。 	VII 36の計画同様	3	同上	3	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続したい。

VII 教 職 員 の 育 成	38. 教員が計画的に授業研修や研究活動を行えるような体制が整えられている。 研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援しあう文化的素地がある。	研修計画・報告書 予算計画書 研究計画書、報告書	<ul style="list-style-type: none"> ・他の教員の授業に参加し、授業研修する体制が整えられている。 ・年間計画として教員の授業、研修、研究活動を取り入れている。 ・学会等において実践報告および研究報告を行っている。 ・教員の研究活動を教員相互で支援しあう体制がある。 ・文献検索システムが整えられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究計画書が1題出され、倫理委員会を通過しており、学会で発表予定である。 ・他の教員の授業に参画し、相互に研鑽する機会を作る。 ・授業研究の計画を立てる。 	3	8月に日本看護学校協議会学会において1題発表した。「統合分野の科目（演習と実習）にプロジェクト学習を導入したことによる教育的効果」 教員は学会や研修会には参加しているが、学会報告は少ない。研究的な取り組みは難しくとも、実践報告としてしていけるとよい。しかし、新カリキュラムの準備などで時間確保が困難な状況である。 授業研究については、小項目10参照	<ul style="list-style-type: none"> ・教育者として、専門職者として研究活動を勧めたい。研究結果の共有、意見交換を習慣にしたい。
VIII 広 報 ・ 地 域 活 動	39. 学校の広報活動を積極的に行っている。	ホームページ 学校説明会報告書 関連市町の広報	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページは受験生の求める情報を掲載し、定期的に更新している。 ・ホームページは卒業生の求める情報を掲載している。 ・学校説明会などには積極的に参加している。 ・広報誌などに学生募集や行事の様子など載せている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページをリニューアルする。 ・学校案内を本年度用に作成する。 ・学校PRの方法を検討し、新しい試みを行う。（自主運行バス、新聞折込チラシ等検討） ・関連市町の広報に学生募集や行事のPRをする。 	5	本年度ホームページのリニューアル、学校案内の修正を行った。また、学校キャラクターを作成し、ホームページ上に登場させた。本年度中に公用車に貼るステッカーと説明会などで使用するのぼり旗を作成していく。 焼津市、藤枝市、牧之原市、吉田町の広報に学校行事や学生募集などを載せPRしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学校のPRを機会を捉え、積極的に行うことをこれからも期待します。

VIII 広報 ・ 地域 活動	40. 看護教育活動を通し地域社会への貢献を組織的に行っている。	学校説明会報告書 学校祭総括年報	<ul style="list-style-type: none"> ・講座や学校見学などの依頼には積極的に応じている。 ・学校祭には多くの地域住民が訪れている。 ・学校設備の地域への開放をしている。 ・学生には地域のボランティア活動への参加を促している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・藤枝市の出前講座は可能な範囲で出向く。教員は1回以上は出向く努力をする。 ・焼津市のふくしのすすめに協力する。 ・牧之原市へのPRとして、学校説明会等を提案していく。 ・学生の自治活動であるコミュニティ活動として、地域へのさまざまな催しへの参加を促していく。 	5	<p>平成30年度の出前講座は10講座であった。本年度は5講座の依頼を受け実施した。</p> <p>8月6日に焼津市のふくしのすすめを実施した。牧之原市へ学校が出向く行う学校説明会についてのPRは昨年度提案している。今後も働きかける。</p> <p>9月12日榛原総合病院の看護職員確保のための初の取組みである高等学校の教員との交流会に参加した。</p> <p>学生の自治会であるコミュニティに依頼し、福祉施設のイベントに3回参加した。(ダンスサークル、軽音楽サークル)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も機会を捉え、発信し続けることを期待する。
VIII 広報 ・ 地域 活動	41. 学校から地域社会へ情報を発信する手段をもっている。	関連市町の広報 ホームページ 学校説明会報告書	<ul style="list-style-type: none"> ・市町の広報を利用している。 ・学校のホームページを開設している。 ・地域住民に開放した学校祭を開催している。 ・要請に応じ学校説明や職業説明を行っている。 ・看護系志望の者に対し学校説明会を開催している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市町の広報を活用し学校祭やオープンキャンパス、式典など催しのお知らせをする。 ・ホームページはタイムリーに更新する。 ・高校や業者主催の進路説明会にはできる限り出向く。 ・イメージキャラクターを作成し、PRのために活用する。(ファイル、車に貼るステッカー、旗など) 	5	<p>イメージキャラクターの活用や市町の広報誌の活用については、小項目39で評価した。</p> <p>高校や業者主催の進路説明会には積極的に出向いた。</p> <p>ホームページはタイムリーに更新している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報公開を適時行うことで、学校の進むべき方向性を示していただきたい。

学校内評価：自己点検自己評価担当
伊藤みどり 亀澤ますみ 竹田直子

第三者評価：学校関係者評価委員会
委員長 望月章子

令和2年3月

